



第50期 株主通信

平成22年4月1日から平成23年3月31日

TAKAMIZ

高松機械工業株式会社

〔証券コード6155〕



株主の皆様へ



トップに訊く——The President Talks

代表取締役社長

高松喜与志

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

第50期の事業環境は、原油価格の高騰や円高等の不安材料がある中で、海外経済の回復がけん引役となって企業収益の改善が進み、緩やかな回復基調が続いてきました。

工作機械業界でも、経済の回復から需要の増加が続いてきたことで、月次ベースではリーマンショック前の水準近くまで回復し、平成23年1月から3ヶ月連続で受注が1,000億円に達しました。この結果、平成22年度業界受注総額は3年ぶりに1兆円を超え、1兆1,136億円となりました。特に外需におきましては、中国を中心としたアジアが約6割を占めており、アジアの受注額は過去最高額となる4,511億円を記録しています。

当社グループでも、新興国市場向け新製品の開発、中国市場拡大のための販売子会社の設立など、外需拡大に向けた戦略を推進してきました。

しかし、このような状況の中で平成23年3月の東日本大震災による影響から、先行きの不透明感が増しました。当社は幸いにも大きな被害を受

けることはありませんでしたが、この未曾有の大震災におきまして、営業担当の取締役を現地に派遣し、取引先を巡回して状況の把握に努めるとともに、サービス・メンテナンスを必要とするユーザに技術者を派遣し、対応してきました。また、被災地の復興および被災者の救済にお役立ていただくために、些少ではございますが当社から500万円を拠出し、また当社従業員および協力企業からの義援金を合わせまして、総額10,212,651円を寄付させていただきました。被災されました方々に謹んでお見舞い申し上げますとともに、1日も早い被災地の復興と被災者の皆様の生活の安定を心より祈念いたします。

工作機械業界の先行きは、外需のけん引によって堅調に推移すると見込まれます。しかし、震災の影響によって部品の調達に影響が出る可能性があるなど、本格的回復への道筋に懸念事項が残っていますが、当社グループでは、これまで以上にユーザニーズに応えた製品の提供に努めていく所存でありますので、今後ご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

Q.

第50期で行ってきた 取り組みと業績について 教えてください。

A.

第50期では、海外販売を増加させるために現地のサービス・サポート体制を強化し、中でもアジアに注力してきました。特に中国は工作機械の最大の需要国ですので、当社グループの新たな一員として販売を行う喜志高松貿易(杭州)有限公司を新設し、現地生産を行っている杭州友嘉高松機械有限公司と連携をとって市場拡大をはかってきました。日系企業が多く進出しているタイでは自動車やオートバイの生産台数が増加し、設備投資意欲が高まってきたので、タイ現地子会社と連携して積極的な営業活動を進め、多くの受注を確保しました。

また、9月のIMTS2010(シカゴ)や11月のMETALEX2010(バンコク)、JIMTOF2010(東京)などの展示会出展や、タイ、ヨーロッパの現地子会社によるプライベート・ショー開催によって、新製品発表や技術アピールを行ってきました。

一方内需に対しましては、外需に比べて回復の程度が低いものの、当社の主力ユーザである自動車業界ではエコカー減税・補助金の影響もあって生産を増加させてきたため、当社の得意とする自動化システムやユーザニーズに応える新製品等をもって提案型営業を推進し、需要の掘り起こしに努めて受注増加をはかってきました。



JIMTOF2010(東京)

研究開発では、当社主力機種「X-100」をフルモデルチェンジし、約10%の省エネを実現するとともに高い生産性も実現させた「XL-100」、新興国市場向けの低価格機「GSL-15」を開発し、発表しました。また、ユーザニーズが高まってきている複合加工機の開発に取り組んできました。

その他、従来設備よりも高い加工能力・精度を持つ門型ベッド研削盤の新設、効率的な生産管理の実施、グローバル最適調達、原価低減・コスト削減などに取り組んできました。

IT関連製造装置事業では、好調が続く半導体業界からの受注案件を積極的に増やしてきたとともに、好不況の波が激しい半導体業界だけに頼ることがないように、テレビやスマートフォンで需要が増え始めた液晶関連やハードディスク関連の受注確保をはかり、安定した売上高の確保に努めてきました。

自動車部品加工事業では、自動車生産の増加に対応した生産を行ってきたとともに、更なる受注確保のために積極的な受注活動を進めてきました。

Q.

第50期の取り組み および業績結果について お聞かせ下さい。

A.

第50期は、工作機械受注高101億55百万円(前年同期比138.0%増)、売上高109億49百万円(前年同期比146.0%増)、営業利益83百万円(前年同期は17億37百万円の営業損失)、経常利益1億32百万円(前年同期は14億95百万円の経常損失)、当期純利益3億34百万円(前年同期は13億99百万円の当期純損失)となり、2期ぶりの黒字となりました。

事業別で見ますと、工作機械事業では、自動車産業からの大型受注をいただくことができた影響もあり、売上高が98億26百万円(前年同期比169.0%増)となりました。その内訳は、内需67億1百万円(同148.6%増)、外需31億25百万円(同226.6%増)、外需比率31.8%であります。また、営業利益が61百万円(前年同期は16億55百万円の営業損失)の大幅な増収増益となりました。

IT関連製造装置事業でも、売上高が6億27百万円(前年同期比136.4%増)、営業利益が23百万円(前年同期は58百万円の営業損失)の大幅な増収増益となりました。

自動車部品加工事業では、売上高が4億95百万円(前年同期比7.2%減)、営業損失が1百万円(前年同期は22百万円の営業損失)となりました。

Q.

第51期の見通しについて お聞かせ下さい。

A.

世界経済は、新興国の成長だけではなく、アメリカやヨーロッパでも景気回復基調が続くと見られていますが、日本経済の先行きは東日本大震災によって不透明な状況にあります。今後、復興に向けて需要が拡大するものと見込まれていますが、原油や原材料の高騰など、景気下振れの不安要素が多く存在しています。

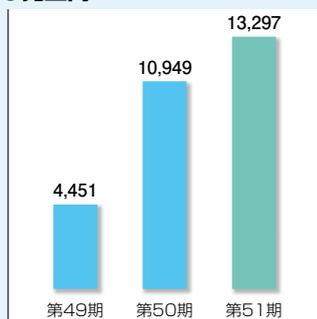
工作機械業界でも、電力供給問題など、震災の影響が不明確であり、その規模が想定を上回る可能性や部品調達などの生産面に影響を及ぼす懸念があります。しかし、外需を中心に回復を続けている傾向は変わらないものと見込まれ、堅調に推移していくことが期待されています。また、IT関連製造装置事業でも、液晶・半導体関連の需要が好調さを維持すると見込まれています。

このような環境の中で当社グループは、積極的な提案型営業の推進によって需要の取り込みをはかっていくことで、第51期は売上高132億97百万円、営業利益4億77百万円、経常利益5億30百万円、当期純利益3億49百万円を見込んでいます。

■第51期の連結業績見込み

(単位:百万円)

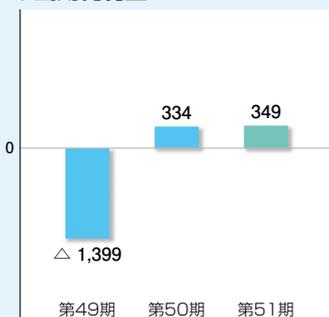
●売上高



●経常利益



●当期純利益



Q. 需要が拡大している 海外への対応について 教えてください。

A. 日本工作機械工業会が取りまとめている会員の受注状況は、外需比率が7割弱にまで達し、内需を大きく上回っております。今後の動向を考えましても、国内市場が大きく需要を伸ばしていくことを見込みにくく、より海外市場の重要性が高まるものと思われまます。

その中で当社グループの外需比率はまだ3割程度にとどまっておりますが、引き続き海外における体制を強化していくことで、製品の半分を海外で販売するようにしていきたいと考えています。

そのためにまずは中国市場拡大を進めます。中国はこれからも大きな需要が見込めますので、海外戦略上欠かせない市場であります。そこで、11月に新設した喜志高松貿易(杭州)有限公司の営業活動を推進していくとともに、新規ディーラの開拓によって中国販売チャネル拡大をはかっていきます。中国は広大ですので、適切なサービスを提供していくためにも、支店開設を視野に入れて早急な体制強化に努めます。

また当社グループには、中国現地で生産を行っている杭州友嘉高松機械有限公司があります。現在、新工場の建設・移転を計画しており、生産能力の拡大をはかっていくことで、中国市場の需要を取り込んでい

きます。同社には日本から主要ユニットを販売していることから、需要拡大に対して十分なユニット量を提供していくために、日本国内でも生産体制の強化をはかっていきます。

このようにグループ全体で活動していくことで、中国市場にTAKAMAZブランドを浸透させ、シェア拡大をはかっていきます。

工作機械は世界各地で必要とされており、中国以外にも当社グループの進出が弱い国はまだ数多くあります。インドやブラジルなどの新興国では、市場参入・拡大のためには様々な問題が発生するものの、将来的に魅力ある市場が広がっています。各国市場に最適な対応を推進していくべく、検討し、対処していきます。

その他、アメリカやヨーロッパにおいても、当社グループ間の連携強化によってソリューション提案力を高めるとともに、販売ネットワークの拡大をはかります。



インド展示会での商談風景

株主の皆様へ一言 Q. お願いします。

A. 東日本大震災により、当社製品の主力ユーザである自動車産業は生産に大きな影響を受けました。しかし、世界的に見ると自動車の需要は今後も増えていくことが予想され、工作機械の必要性も高まってくると見込まれます。当社グループとしましては、需要に対応できるように、体制の強化をはかって事業の拡大に努め、業績を向上させていくとともに、株主の皆様への適切な利益還元を行ってまいります。

第50期では、当初の業績見込みを上回ってリーマンショックによる未曾有の落ち込みから急回復し、額は小さいながらも2期連続の赤字となることなく黒字を計上することができましたので、年間配当を1株当たり5円とさせていただきます。

第51期では、原材料価格の高騰や部品調達の問題などの不安要素があり、先行きはまだまだ楽観できませんが、業績の更なる回復が見込めることから、中間期に3円、期末に5円の年間配当8円とし、増配を計画しています。

当社は製造業であり、恒常的な設備投資等を行う資金が必要ですが、株主の皆様への安定的な配当を行うことも重要だと考えておりますので、企業体質の改善強化に取り組み、利益の確保に努めてまいります。

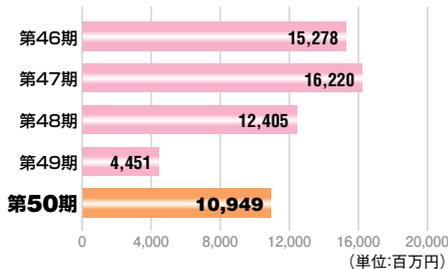
業績の推移

連結業績ハイライト

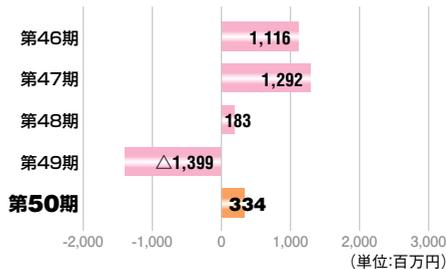
| 科目 | 第46期 (平成18年度) | 第47期 (平成19年度) | 第48期 (平成20年度) | 第49期 (平成21年度) | 第50期 (平成22年度) |
|------------------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 売上高 (百万円) | 15,278 | 16,220 | 12,405 | 4,451 | 10,949 |
| 営業利益又は営業損失(△) (百万円) | 2,031 | 2,109 | 382 | △ 1,737 | 83 |
| 経常利益又は経常損失(△) (百万円) | 2,048 | 2,193 | 434 | △ 1,495 | 132 |
| 当期純利益又は当期純損失(△) (百万円) | 1,116 | 1,292 | 183 | △ 1,399 | 334 |
| 純資産額 (百万円) | 8,230 | 9,349 | 9,234 | 7,849 | 8,129 |
| 総資産額 (百万円) | 15,416 | 16,184 | 12,670 | 11,339 | 14,343 |
| 1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△) (円) | 104.36 | 119.04 | 17.02 | △ 130.56 | 31.20 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 759.22 | 858.91 | 857.72 | 727.22 | 752.50 |

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

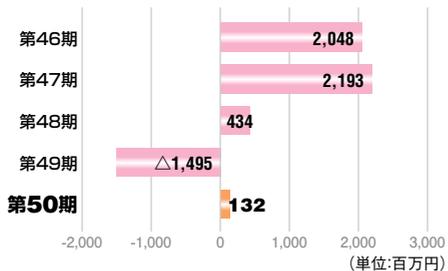
●売上高



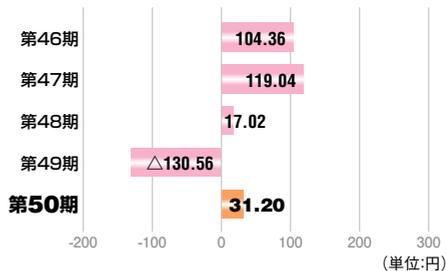
●当期純利益



●経常利益



●1株当たり当期純利益



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

| 科目 | 前連結会計年度 (平成22年3月31日現在) | 当連結会計年度 (平成23年3月31日現在) | 科目 | 前連結会計年度 (平成22年3月31日現在) | 当連結会計年度 (平成23年3月31日現在) |
|-----------------|---------------------------|---------------------------|--------------------|---------------------------|---------------------------|
| (資産の部) | | | (負債の部) | | |
| 流動資産 | 6,513 | 8,721 | 流動負債 | 2,760 | 4,591 |
| 現金及び預金 | 2,983 | 2,418 | 支払手形及び買掛金 | 1,581 | 3,033 |
| 受取手形及び売掛金 | 1,709 | 4,299 | 短期借入金 | 930 | 1,129 |
| 商品及び製品 | 247 | 244 | 未払法人税等 | 6 | 33 |
| 仕掛品 | 688 | 670 | 賞与引当金 | 85 | 128 |
| 原材料及び貯蔵品 | 565 | 700 | 役員賞与引当金 | — | 20 |
| 繰延税金資産 | 151 | 355 | 製品保証引当金 | 9 | 23 |
| その他 | 169 | 36 | その他 | 147 | 222 |
| 貸倒引当金 | △ 1 | △ 4 | 固定負債 | 729 | 1,622 |
| 固定資産 | 4,825 | 5,621 | 長期借入金 | — | 867 |
| 有形固定資産 | 3,834 | 4,415 | 退職給付引当金 | 486 | 482 |
| 建物及び構築物 | 1,098 | 1,029 | 役員退職慰労引当金 | 241 | 253 |
| 機械装置及び運搬具 | 669 | 946 | その他 | 0 | 18 |
| 工具、器具及び備品 | 126 | 107 | 負債合計 | 3,489 | 6,214 |
| 土地 | 1,379 | 2,332 | (純資産の部) | | |
| 建設仮勘定 | 561 | — | 株主資本 | 7,752 | 8,065 |
| 無形固定資産 | 43 | 31 | 資本金 | 1,835 | 1,835 |
| のれん | 41 | 29 | 資本剰余金 | 1,833 | 1,833 |
| 電話加入権 | 1 | 1 | 利益剰余金 | 4,205 | 4,518 |
| 投資その他の資産 | 947 | 1,174 | 自己株式 | △ 121 | △ 121 |
| 投資有価証券 | 446 | 620 | その他の包括利益累計額 | 41 | △ 0 |
| 保険積立金 | 135 | 138 | その他有価証券評価差額金 | 56 | 37 |
| 繰延税金資産 | 326 | 370 | 為替換算調整勘定 | △ 14 | △ 37 |
| その他 | 38 | 46 | 新株予約権 | 54 | 64 |
| 貸倒引当金 | △ 0 | △ 0 | 少数株主持分 | 0 | 0 |
| 資産合計 | 11,339 | 14,343 | 純資産合計 | 7,849 | 8,129 |
| | | | 負債純資産合計 | 11,339 | 14,343 |

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 当連結会計年度より、包括利益の表示に関する会計基準を適用しております。ただし、その他の包括利益累計額の前連結会計年度の金額は、評価・換算差額等の金額を記載しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

| 科 目 | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 |
|-----------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| | (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
| 売上高 | 4,451 | 10,949 |
| 売上原価 | 4,360 | 8,644 |
| 売上総利益 | 91 | 2,305 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,829 | 2,222 |
| 営業利益又は営業損失(△) | △ 1,737 | 83 |
| 営業外収益 | 247 | 66 |
| 営業外費用 | 5 | 17 |
| 経常利益又は経常損失(△) | △ 1,495 | 132 |
| 特別利益 | 18 | 0 |
| 特別損失 | 209 | 1 |
| 税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△) | △ 1,687 | 131 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 5 | 30 |
| 法人税等調整額 | △ 292 | △ 234 |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | — | 334 |
| 少数株主利益 | 0 | 0 |
| 当期純利益又は当期純損失(△) | △ 1,399 | 334 |

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結包括利益計算書

(単位:百万円)

| 科 目 | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 |
|------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| | (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | — | 334 |
| その他の包括利益 | — | △ 42 |
| その他有価証券評価差額金 | — | △ 18 |
| 為替換算調整勘定 | — | △ 11 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | — | △ 12 |
| 包括利益 | — | 292 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る包括利益 | — | 292 |
| 少数株主に係る包括利益 | — | 0 |

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| 科 目 | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 |
|---------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| | (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △ 142 | △ 432 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,100 | △ 266 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 419 | 1,045 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 2 | △ 11 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △ 820 | 335 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,715 | 895 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 895 | 1,230 |

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

CIMT2011(北京)、MEX金沢2011に出展しました



当社では、当社製品および技術を広く紹介する機会として、展示会への出展を積極的に行っております。その中でも今回は、CIMT2011(写真上)とMEX金沢2011(写真下)の様子をご報告します。

CIMT(中国国際工作機械展覧会)は、北京で行われる世界最大規模の展示会です。12回目となる今回は平成23年4月11日～16日に開催されました。数多くの来場者が訪れて、昨今の中国の成長を表すように会場は熱気に包まれていました。当社ブースでも賑わいを見せ、多くの引合をいただきました。

MEX金沢は地元石川県にて毎年開催されている機械工業見本市です。平成23年5月19日～21日に開催され、当社はタカマツ製品5機種、グループ製品3機種を展示しました。国内景気の回復を示すかのように、お客様の設備投資意欲が高まっており、活発な商談を行うことができました。

日本機械学会優秀製品賞を受賞しました

当社が開発しましたUSLシリーズが、平成22年度日本機械学会優秀製品賞を受賞し、平成23年4月21日に表彰を受けました。

同賞は、既存技術の工夫や改良、草の根的な技術開発などによって生み出された優れた製品を顕彰することで、わが国のものづくりを幅広く活性化・サポートすることを目的として一般社団法人日本機械学会が制定したものであり、今回で6回目を数えます。

このUSLシリーズは、平成20年2月にも社団法人日本機械工業連合会主催の平成19年度優秀省エネルギー機器表彰において日本機械工業連合会会長賞を受賞しており、2つ目の受賞となります。

このような形で当社が取り組んでいる“製品による環境対策”が評価されることは、大変光栄なことに存じます。今後も社会やユーザーに貢献できる環境に優しい製品を開発し、提供を続けていきます。



受賞の対象となったUSLシリーズ

喜志高松貿易(杭州)有限公司を設立しました

中国市場における当社製品の市場シェアを拡大させていくために、独資の販売子会社を平成22年11月に新設しました。商号は『喜志高松貿易(杭州)有限公司』であります。事務所は杭州に設置し、生産子会社の杭州友嘉高松機械有限公司と同じ敷地内になります。上海も近く、需要が高い地域であるとともに、当社グループ内での連携がとりやすいことから同所に設立しました。



すでに営業を開始しており、平成23年4月に北京で開催されたCIMT2011でも積極的に営業活動を行ってきました。営業員には日本でトレーニングを積んだ中国人も常駐させる予定で、日系だけではなくローカル企業を含めた需要の取り込みをはかっていきます。また、広大な中国での販売力を強化していくために、現地ディーラの開拓に努めます。



CIMT2011(北京)での営業活動

今はまだ小さな会社ですが、早期の体制強化をはかり、需要が増加している中国においてTAKAMAZブランドを浸透させていく所存でありますので、今後のご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

関東支店移転のお知らせ

この度、関東支店は平成23年3月28日をもって、老朽化の進んだ旧事務所から下記の新事務所へ移転しました。

移転準備を進めている時に東北地方太平洋沖地震が発生しましたが、幸いにも関東支店事務所や営業員は影響を受けずに済みました。しかし、工場が被害を受けられたお客様がいらっしゃいますので、被災した工作機械の確認・調整や修理を行うことで、お客様の早期操業再開に向けてのお手伝いをさせていただきます。

今回の移転によって、さらにお客様のお役に立てるように全員一丸となって一層の努力を重ねるとともに、被災地の産業再生の一助となるべく営業活動を推進する所存ですので、今後とも深くご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(新住所)〒360-0042 埼玉県熊谷市本町2丁目48番地
(熊谷第一生命ビルディング)

TEL (048)521-8771 FAX (048)520-2189



関東支店が入居するビル(1階)

職場紹介

(IT関連製造装置事業)



IT関連製造装置事業は、石川県白山市にある「開発センター」で新分野事業部が行っています。従業員は男性21名、女性2名の合計23名で、毎日元気に仕事に取り組んでいます。

当事業では、主に液晶部品や半導体を製造する工程の一部を担う装置を生産しています。そこから作られた製品は、液晶テレビや携帯電話、パソコンなどに使われています。

液晶部品や半導体を製造する上で、最も大敵となるのが埃(ほこり)です。製造装置においても埃は厳禁となるため、埃のないクリーンな環境で生産することが必要とされます。開発センターには、空気清浄度(空気のきれいさを表す数値のこと。一般的には雲の上でクラス1,000、手術室においてはクラス50,000と言われています)がクラス5,000のクリーンルームを完備していますので、非常にクリーンな環境で装置を生産することができます。



クリーンルームの空気清浄度を保つためには、作業者自身も清潔でないとはいけません。入室の際には、まず専用のクリーンスーツとブーツを着用し、全身を覆います。次にエアシャワー室に入り、体についた埃を吹き飛ばします。全身がきれいになった状態で、やっと入室できるのです。そうして外部からの埃を完全にシャットアウトし、装置に埃がつかないように細心の注意を払いながら作業に取り組んでいます。

液晶部品や半導体の市場は変化が激しいため、生産量に影響を受ける場合もありますが、近年はスマートフォンやタブレット端末などの需要が増えてきていますので、クリーンルームをはじめ、2つの組立室での生産体制が整っている当社では、半導体の製造装置において月30台前後の受注をいただいています。

このように、新分野事業部では私達の生活に欠かせない電化製品を生み出すIT関連製造装置の生産にさらに力を入れ、加えて新規分野としてLEDの製造装置などにも意欲的に取り組み、当社の工作機械・自動車部品加工に並ぶ「第三の柱」として活躍していけるよう、全員が一丸となって売上増加に向けて頑張っています。

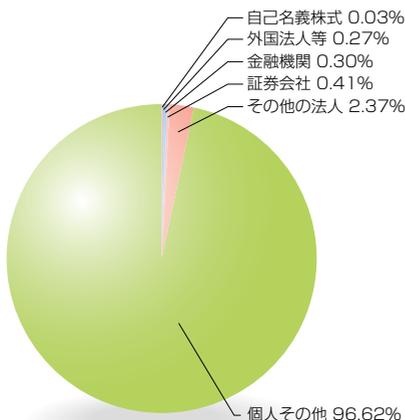


株式の状況 (平成23年3月31日現在)

株式の状況

- ①発行可能株式総数……………30,000,000株
- ②発行済株式総数……………11,020,000株
- ③1単元の株式数……………100株
- ④株主数……………2,950名

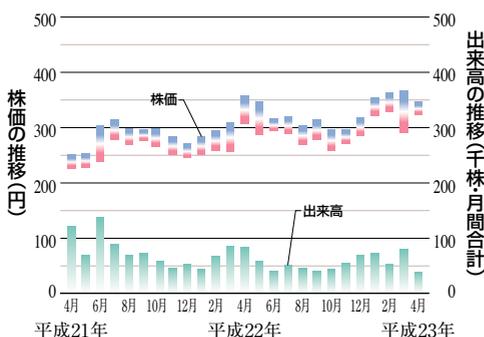
所有者別分布状況



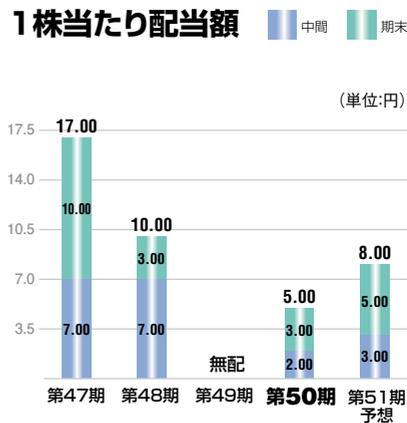
大株主

| 株主名 | 当社への出資状況 | |
|----------------|-----------|---------|
| | 所有株式数(千株) | 持株比率(%) |
| 高松機械工業取引先持株会 | 697 | 6.33 |
| 株式会社タカマツ | 600 | 5.44 |
| 高松喜与志 | 517 | 4.69 |
| 日本生命保険相互会社 | 480 | 4.36 |
| 北国総合リース株式会社 | 433 | 3.93 |
| 高松機械工業社員持株会 | 432 | 3.92 |
| 株式会社北国銀行 | 408 | 3.70 |
| 三井住友海上火災保険株式会社 | 408 | 3.70 |
| 明治安田生命保険相互会社 | 360 | 3.27 |
| 株式会社朝日電機製作所 | 347 | 3.15 |

株価インフォメーション



1株当たり配当額



会社の概要 (平成23年3月31日現在)

会社概要

| | |
|------------|--|
| 商号 | 高松機械工業株式会社 |
| 設立 | 昭和36年7月 |
| 資本金 | 18億3,539万円 |
| 本社 | 石川県白山市旭丘1丁目8番地 |
| 従業員数 | 392名 |
| 子会社および関連会社 | TAKAMATSU MACHINERY U.S.A., INC. TAKAMATSU MACHINERY (THAILAND) CO., LTD. TAKAMAZ MACHINERY EUROPE GmbH 喜志高松貿易(杭州)有限公司 株式会社タカマツエマグ 杭州友嘉高松機械有限公司 株式会社エフ・ティ・ジャパン |
| ホームページアドレス | http://www.takamaz.co.jp |

役員

(平成23年6月27日現在)

| | |
|----------------------|-------|
| 代表取締役社長 | 高松喜与志 |
| 常務取締役(生産本部担当) | 前田充夫 |
| 常務取締役(営業本部担当) | 中西与平 |
| 常務取締役(管理本部担当) | 溝口清 |
| 取締役(営業本部副本部長兼国内営業部長) | 川上友安 |
| 取締役(生産本部副本部長兼製造部長) | 宮川隆 |
| 取締役(営業本部海外営業部長) | 徳野川 |
| 取締役(生産本部生産管理部長) | 中松進 |
| 取締役(管理本部総務人事部長) | 高松宗一郎 |
| 取締役(社外) | 中西祐一 |
| 常勤監査役 | 池上佳信 |
| 監査役(社外) | 鍛冶治敏 |
| 監査役(社外) | 杖村修弘 |

ネットワークとサービス体制



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月中

株主確定基準日 (1)定時株主総会 3月31日
(2)期末配当金 3月31日
(3)中間配当金 9月30日
(4)その他必要ある時 あらかじめ公告して定めた日

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人 および 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
特別口座の口座管理機関 住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-176-417
(インターネットホームページURL) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法 当社ホームページに掲載 <http://www.takamaz.co.jp>

上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部

お問い合わせ先 管理本部 企画経理部
TEL 076-274-1411(直通) FAX 076-274-1418



本社工場(工作機械事業)



第2工場(コレットチャック生産)



第3工場(自動車部品加工)



開発センター(IT関連製造装置)

製品のご紹介



NEW XL-100

これまで多くのユーザーに永く愛されてきた主力機種をフルモデルチェンジさせました。すでに発売済みの「XC-100」とこの「XL-100」で6インチ旋盤を利用するすべてのユーザーを満足させます。



NEW GSL-15

新興国市場の開拓をはかるために開発したローコストマシンです。ニーズに合わせてシンプルな機能にするとともに、部品点数の削減などで新興国でお求めやすい価格にてご提供します。

がんばろう!日本

TAKAMAZ
高松機械工業株式会社

ホームページ <http://www.takamaz.co.jp>

